

電 信

保存期間：令和 5年12月31日迄

主管

総番号 R0000430

主 管

令和 2年 1月 5日

トルコ発 中東1

令和 2年 1月 5日

本省着

外務大臣殿

宮島 昭夫大使

カルロス・ゴーン氏のレバノン入国（トルコ紙報道振り）

第9号

往電第8号に関し、

1月5日付け当地報道ぶり以下のとおり。

1 逃亡の経緯

（1）カルロス・ゴーン元日産CEOのレバノンへの逃亡の詳細が明らかにされた。MNG航空が運航するジェット機「TC-TSR」は、イスタンブールからドバイに向かい、そこから元米特殊部隊員であるM. L. TaylorとG. A. Zayekの2名と音響機器を入れるための2つの箱を大阪に運んだ。関空では、箱が大きいのでX-rayに通せず、ハンディ金属探知機による検査が行われた。当該機は1日後の12月29日11時10分に離陸し、米国人2名と箱に隠れたゴーン氏をイスタンブールに運んだ。

（2）当該米国人らは、「邪魔されたくない」としキャビンテンダントを客室に入らせなかった。Aksam紙の報道によれば、12月30日、MNG航空が運航するジェット機「TC-RZA」はアタテュルク空港で同会社所有の格納庫の前で待機した。5時29分に大阪からアタテュルク空港に入港した「TC-TSR」は待機中のジェット機の20メートルの近くで停止し、（逮捕された）MNG航空社社員（Okan K）は乗客2名が降りるのを待ち、パイロットとキャビンアテンダントを乗り込ませた。また、5分以内に音響機器の箱は積み替えられた。

注意

一

電報の取扱いに関する情報は慎重に扱い、必要に応じて連絡願います。

(3) その直後、Okon K. も乗り込み、(離陸のために) 最終チェックがなされないままレバノンに向け離陸した。乗客リストには1名の乗客のみ記載され、箱から出てきたゴーン氏は通常の乗客として飛行した。ゴーン氏をベイルートに降ろした後、Okon K. は当該機で戻ってきた。また、米国人2名は定期便でイスタンブールからベイルートに向かった。

## 2 ギュル司法大臣発言概要

現在のところ、日本から司法協力要請はきていない。レッドノーティスで追われる人物がトルコにいるのであれば、トルコは送還に応じる。

転電《添付無》イスタンブール、レバノン、フランス、米国、ブラジル(了)

注意

電報の取り扱いは慎重に願います。電報処理班 内線四二一三・四二一四 に連絡願います。